

歴史を生かしたまちづくり

# 横濱新聞

Y O K O H A M A

## 横浜山手聖公会聖堂 外壁補修現場の技術者向け見学会と歴史を生かしたまちづくりセミナー(第39回)の開催

平成28(2016)年7月16日(土)、横浜山手聖公会聖堂において、「第39回歴史を生かしたまちづくりセミナー～石の記憶～」を開催した。セミナーは3部構成で、はじめに5月24日に開催した横浜山手聖公会大谷石施工現場見学会の報告が、JIA神奈川の笠井三義氏(カサイアーキテクチュラルデザイン代表)からあり、続いて「石の記憶～横浜の歴史的建造物と石」と題して横浜都市発展記念館主任調査研究員の

青木祐介氏が講演した。同氏は、江戸末期から近世、近代に至る段階での横浜における石にまつわる様々な事象が紹介され、いかに近代建築物の用材として石が重要な役割を果たしてきたか、またそれらが関東一円の地、特に栃木の太谷、千葉の房総、相模などから持ち込まれ、様々な用途に利用されてきたかを横浜に残る近代建築に照らし合わせながら語った。

続くパネルディスカッションでは、横浜

歴史資産調査会常務理事・事務局長の米山淳一によって進行され、パネリスト4名を紹介した。はじめに宇都宮大学准教授・大谷石アカデミー学科指導長の安森亮雄氏、二番目は金谷美術館理事長の鈴木裕士氏、三番目は建築設計事務所を主宰されている

建築家の木嶋房由記氏、そして講演者でもある青木氏がコメンテーターとして加わった。安森氏は、地元の大谷石とその取組について、まず大谷石の性質からひもとき、細工がしやすいことからくる様々な使われ方などを紹介、大谷石アカデミーを中心に今後の石の発展的な利用方策などへの取組などを語った。そして鈴木氏は、鋸山から切り出された房州石について、現在では採掘されていないが、かつての繁栄状況や現在のまちづくりに向けての取組など、房州石を通じてまちの活性化に努めていることを語った。そして木嶋氏は、



まちづくりセミナーの様子

まちづくりや地域活性化の理念的な活動実践としての取組を「妄想と実践」と題して語った。

そして会場からの質問に答える形でセミナーを進め、コメンテーターの青木氏からは、石の生産地と消費地の関係を重視し、お互いに交流を深めていくことこそが有意義ではないかとのコメントがあった。そして最後にコーディネーターの米山が、自身の経験から、「歴史や生活文化を石が繋いできたとも言える。足下の石をもう一度見直して、石に光を当てていただきたい。」と締めくくった。



【横浜山手聖公会】聖堂



【横浜山手聖公会】大谷石施工現場見学会の様子